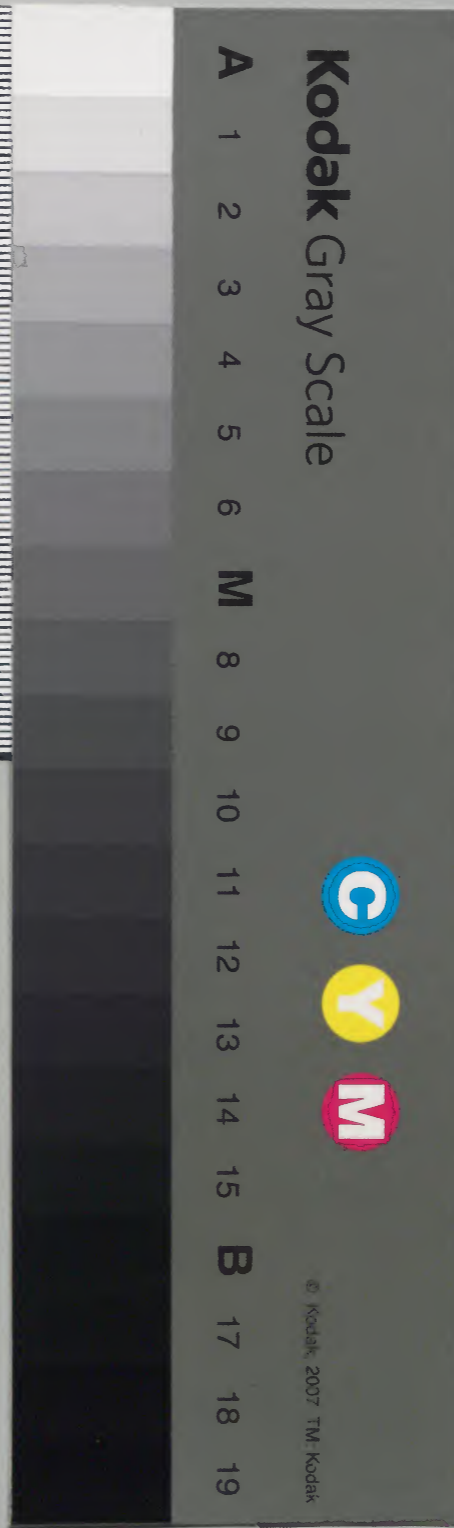


和書門類
二七六一號
函架
二〇冊

和書門類	二七六一號	函架	二〇冊
------	-------	----	-----

和書門類	二七六一號	函架	二〇冊
------	-------	----	-----

内閣文庫	
番號	和 27681
冊數	20 (15)
函號	202 / 181



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり
綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

春雨抄卷第八

何

一 わめつら



^義ては乃きつあも志ぬ法代あまらも田の村乃船と秋つあ 花巻

^義久遠はを遠あもせよそ思ふこころ先やまは兼志あ 志麻

^日初は雲よ神もあこころ終 ては乃のこころこころは雲あ

^日歎くを思ふよそ遠色し終 まは成せとたりたりはあ

^去こころをばあよたあとうこ てはもあつこころりあつあ

^日ま身の果やせよまらき わめつらも泪のうらみ

^修てはのひも雲つる神代より終ぬつる まを久しき

一 わめ乃戸 唯空の事や 唯空の事や唯空の事や唯空の事や

新書白
たは平

天下神代はもとより三皇三山はよかきぬ人なありし也
御後神代は幸代は是の如く下下地はよりなり
あまのつみをたてて人々下下地はよりなり
さ下下地はよりなりしはみきたはよりなりしは
あゆまをよめ 日本記曰

天人五衰一云善頂上り好華鬘鬘來也名如
二眼ノ下ヨリ肝穿る也少少也三光滅下
云以中ヨリ光とあやな日月ノ如し四兩敷膝ト云
ゆゑきことせふ又不樂中座ト云身ノ多ク
殺乱あくと衰時分乱志と位不名西白也死即
ハ又後云と衰ハ又衰と云判
天武所定者好宮位結時天レ女入来リ落

し女子をよめんとはんふひと是かよめ海はく空よめ
君代乃光りしりしとささひあり其美とて

大内あくと又高の舞姫と云何判
うらひ風し女乃神を定ふ秋之志もとも寝れぬあり 定家

一 万海のつと見上云 日本記云

男子三歳と信位成行して子御車前ガを新あ
又人取き子ノ姿水り光立あはよ千ヨラヤリ
是と世俗等あつコラト云守めは志のよ子以り
はらりそはらりとくわらあとも唐ノ天子信位車
別人取とキと信位と指御車と云は人刑行先
指とさあ光ノ若く象をせんあり

朝朝日くししはあまゆありあもつらとく人のいふらん
あひがら

わががけ馬をまきふひきき をきふひきすじ 明女の
拳は月のおちる成りけ

残奇もつて姿あかりらん 山の明女のうらた女 くれ
山はれ枝のしきままなりとく

あつ唯すめり浦よまふて 花をひきき 海の明女の
まのこふ思ふとけいせはあ 夏是とあつ 明女のえ 隆寛

うらまゝいとしゆふれ の明女の 一村の松のふき 唐奇
さやふら秋よゆらう 表の月をふし 明女の 有吏

朝日山まじも た明女の 寄北下のう地のま あ
わさならも

みよ何あはれのつら 山霞はれ 花のおり を
朝朝我身は む 霜あつた あ と き と い わ ひ かん

朝朝 た 我身 は 霜 あ つた あ と き と い わ ひ かん
朝朝 た 我身 は 霜 あ つた あ と き と い わ ひ かん

朝朝 た 我身 は 霜 あ つた あ と き と い わ ひ かん
朝朝 た 我身 は 霜 あ つた あ と き と い わ ひ かん

朝朝 た 我身 は 霜 あ つた あ と き と い わ ひ かん
朝朝 た 我身 は 霜 あ つた あ と き と い わ ひ かん

朝朝 た 我身 は 霜 あ つた あ と き と い わ ひ かん
朝朝 た 我身 は 霜 あ つた あ と き と い わ ひ かん

朝朝 た 我身 は 霜 あ つた あ と き と い わ ひ かん
朝朝 た 我身 は 霜 あ つた あ と き と い わ ひ かん

朝朝 た 我身 は 霜 あ つた あ と き と い わ ひ かん
朝朝 た 我身 は 霜 あ つた あ と き と い わ ひ かん

うしろより海は晴海にぬる月乃をいさるる宮城山

奇林の遠く朝明不好とあり

わさなき 船夕と云初也 爾余食上云わさおけたさ

わさおけたさ まき 船内と云思ひぬわさおけたさ

朝あさり世のさきと云思ひぬわさおけたさ

わさおけたさ まき 船内と云思ひぬわさおけたさ

わさおけたさ まき 船内と云思ひぬわさおけたさ

わさおけたさ まき 船内と云思ひぬわさおけたさ

わさおけたさ まき 船内と云思ひぬわさおけたさ

わさおけたさ まき 船内と云思ひぬわさおけたさ

わさおけたさ まき 船内と云思ひぬわさおけたさ

俵野の者 猿のわさおけたさ まき 船内と云思ひぬわさおけたさ

猿のわさおけたさ まき 船内と云思ひぬわさおけたさ

わさおけたさ

猿のわさおけたさ まき 船内と云思ひぬわさおけたさ

わさおけたさ

猿のわさおけたさ まき 船内と云思ひぬわさおけたさ

猿のわさおけたさ まき 船内と云思ひぬわさおけたさ

猿のわさおけたさ まき 船内と云思ひぬわさおけたさ

猿のわさおけたさ まき 船内と云思ひぬわさおけたさ

猿のわさおけたさ まき 船内と云思ひぬわさおけたさ

猿のわさおけたさ まき 船内と云思ひぬわさおけたさ

猿のわさおけたさ まき 船内と云思ひぬわさおけたさ

神中

あつたる面うけその身おほくあふふくはるの
有明のはまきくはる物うらあつたるひつりう死地は

は奇りめくまきぬくゆつとて鏡ひはる何そあは

あつたるゆつりうあつたるひつりう

わらうまきまきあつたる山よ侍はる昔は下うもまき明は月

大うまきまきあつたるあまきまきあつたるひつりう

有明うらうひつりうと秋の若あつたるうらう

あつたるあつたるあつたるあつたるあつたるあつたる

一 何れあつたる 信徳

夏あつたるあつたるあつたるあつたるあつたるあつたる

あつたるあつたるあつたるあつたるあつたるあつたる

一 あつたるあつたる

あつたるあつたるあつたるあつたるあつたるあつたる

あつたるあつたるあつたるあつたるあつたるあつたる

あつたるあつたるあつたるあつたるあつたるあつたる

あつたるあつたるあつたるあつたるあつたるあつたる

一 あつたるあつたる

あつたるあつたるあつたるあつたるあつたるあつたる

あつたるあつたるあつたるあつたるあつたるあつたる

あつたるあつたるあつたるあつたるあつたるあつたる

あつたるあつたるあつたるあつたるあつたるあつたる

あつたるあつたるあつたるあつたるあつたるあつたる

あつたるあつたるあつたるあつたるあつたるあつたる

あつたるあつたるあつたるあつたるあつたるあつたる

青ふゆの朝の初るる徳也其花をわらひゆく
しるしやきうねむれ花を流 徳とてきりくさ

○ 鏡草 物もれま名之 夕影草 上日

ゆきかきくさきあつ物もれくさあつたかたてきり
夜つら唯朝の草れむくあつた夕影草とわらひあつた

海成の種くさむれあつたさうひわりとさ

一 わさこが

みぢのあもまくれぬ槿花の威さるやあつた
杖果く旁れ色おしとわらばさうさうのうら朝の海

げう朝のやとあつたやりあつたの言れね若葉茂

秋夜よきけあつたの井垣のうら海くも流るはけ

一 下りうら 徳の流る流るうらあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

志あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

朱羅列の如の兜乃くさあつたあつたあつたあつた

日
わくく海乃年とらるわとあわく柳坂山と我わとく

何く野年とられよとらるよつあはれあけり増りたれ

川雅
新野野年と八百年の春はとらるひととあく

正統
正統のりわくくあそふお坂の事綿付るひつうたあ

新玉乃らの如くわひくまそとたつり増裁才成ら

一
わめ あと花の父母 類如花父母

と日しりよまめもくは柳巷親のつこめあき

雲と雨とわくくあそふお坂の事綿付るひつうたあ

神女及来たりたつあはれとさつ時非たつり免中

四段よ巫山神女とる春今しり柳巷とあそふ

あんと幼物と湯屋のえあんととそとあつひとくあ

よるを乃るはわれ其山よ廟ととく参りり巫女廟是

柳の雲成言作行雨 文選之言也

人のあはれとわつらとるあ 徳三月盡ノ教

福く己乃日れ穢とらとら 祇祀ら差乃る打屋じゆん

看せとる軽るあはれ花の信 新じわたりあ神にわつり

そりあはれあつらとらるよ 半あひくあ年ああ

もくあはれとらつらあはる くらりあはる初まの雨

くらりあはれとらつらあはる くらりあはる初まの雨

あそきとらるあそきとらるあそきとらるあそきとらる

ひさあ大るくむさあやういらああ

一味の雨法花母

佛平等説如一味雨随流生新受不同

降あへ平等而不同草才大小あらるる病と立是説

新儀文ノ秋下日

嵐山ありの滝ありきとてきよきも苦めと麻うりたり

前古酒
吉実教

一 阿比山 山城羽日山日途波山と足福山相列 滝石山 信列 石換山大

吉羽山 皇巨山 丹列 阿波山 日 本宿山 野 岩崎山 天香岳

朝しつたわらしれ同のさじをれ結ぶの綿きぬ人ふさる

新儀文ノ
嵐山ありの滝ありきとてきよきも苦めと麻うりたり

新儀文ノ
嵐山ありの滝ありきとてきよきも苦めと麻うりたり

新儀文ノ
嵐山ありの滝ありきとてきよきも苦めと麻うりたり

新儀文ノ
嵐山ありの滝ありきとてきよきも苦めと麻うりたり

新儀文ノ
嵐山ありの滝ありきとてきよきも苦めと麻うりたり

新儀文ノ
嵐山ありの滝ありきとてきよきも苦めと麻うりたり

新儀文ノ
嵐山ありの滝ありきとてきよきも苦めと麻うりたり

新儀文ノ
嵐山ありの滝ありきとてきよきも苦めと麻うりたり

新儀文ノ
嵐山ありの滝ありきとてきよきも苦めと麻うりたり

新儀文ノ
嵐山ありの滝ありきとてきよきも苦めと麻うりたり

新儀文ノ
嵐山ありの滝ありきとてきよきも苦めと麻うりたり

新儀文ノ
嵐山ありの滝ありきとてきよきも苦めと麻うりたり

新儀文ノ
嵐山ありの滝ありきとてきよきも苦めと麻うりたり

新儀文ノ
嵐山ありの滝ありきとてきよきも苦めと麻うりたり

新儀文ノ
嵐山ありの滝ありきとてきよきも苦めと麻うりたり

新儀文ノ
嵐山ありの滝ありきとてきよきも苦めと麻うりたり

新儀文ノ
嵐山ありの滝ありきとてきよきも苦めと麻うりたり

新儀文ノ
嵐山ありの滝ありきとてきよきも苦めと麻うりたり

新儀文ノ
嵐山ありの滝ありきとてきよきも苦めと麻うりたり

新儀文ノ
嵐山ありの滝ありきとてきよきも苦めと麻うりたり

新儀文ノ
嵐山ありの滝ありきとてきよきも苦めと麻うりたり

新儀文ノ
嵐山ありの滝ありきとてきよきも苦めと麻うりたり

吹風のわらわりのきり雪をそぼりて松葉に敷きあり
衣笠 由下

わらわら山雪あり積るる松より山雪をも出さるる月
宗嗣 長

矢田代野小浅茅久はくわらわら山雪の浅雪をそぼりて
宗嗣 長

わらわら山雪のひらり月影も宿り跡さぬ浅りあき
長香

わらわら山 田丈乾

わらわら山雪の世の事きりや雨を止まらん
鳥

わらわら山雪の世の事きりや雨を止まらん
鳥

風じきく松葉の時雨をそぼりてわらわら山雪の浅雪をそぼりて
鳥

わらわら山雪の世の事きりや雨を止まらん
鳥

わらわら山雪の世の事きりや雨を止まらん
鳥

わらわら山雪の世の事きりや雨を止まらん
鳥

わらわら山雪の世の事きりや雨を止まらん
鳥

わらわら山雪の世の事きりや雨を止まらん
鳥

わらわら山雪の世の事きりや雨を止まらん
鳥

わらわら山雪の世の事きりや雨を止まらん
鳥

わらわら山雪の世の事きりや雨を止まらん
鳥

わらわら山雪の世の事きりや雨を止まらん
鳥

わらわら山雪の世の事きりや雨を止まらん
鳥

わらわら山雪の世の事きりや雨を止まらん
鳥

わらわら山雪の世の事きりや雨を止まらん
鳥

わらわら山雪の世の事きりや雨を止まらん
鳥

わらわら山雪の世の事きりや雨を止まらん
鳥

わらわら山雪の世の事きりや雨を止まらん
鳥

わらわら山雪の世の事きりや雨を止まらん
鳥

わらわら山雪の世の事きりや雨を止まらん
鳥

新く我旅

新後記述旅

あつふのさうぶを恋ひわたりた雲のふき山にたゞすそく

律古 國正 旅照 行朝

わすの松のつらけは松原へ長白國一説備へ何武郡

みらるゝの思ひを思ふまゝにあらはれ ながに安らふれ雲原のつら

情を思ふの思ひを思ふまゝにあらはれ ながに安らふれ雲原のつら

みらるゝの思ひを思ふまゝにあらはれ ながに安らふれ雲原のつら

情を思ふの思ひを思ふまゝにあらはれ ながに安らふれ雲原のつら

みらるゝの思ひを思ふまゝにあらはれ ながに安らふれ雲原のつら

情を思ふの思ひを思ふまゝにあらはれ ながに安らふれ雲原のつら

みらるゝの思ひを思ふまゝにあらはれ ながに安らふれ雲原のつら

情を思ふの思ひを思ふまゝにあらはれ ながに安らふれ雲原のつら

みらるゝの思ひを思ふまゝにあらはれ ながに安らふれ雲原のつら

情を思ふの思ひを思ふまゝにあらはれ ながに安らふれ雲原のつら

みらるゝの思ひを思ふまゝにあらはれ ながに安らふれ雲原のつら

情を思ふの思ひを思ふまゝにあらはれ ながに安らふれ雲原のつら

みらるゝの思ひを思ふまゝにあらはれ ながに安らふれ雲原のつら

情を思ふの思ひを思ふまゝにあらはれ ながに安らふれ雲原のつら

みらるゝの思ひを思ふまゝにあらはれ ながに安らふれ雲原のつら

情を思ふの思ひを思ふまゝにあらはれ ながに安らふれ雲原のつら

みらるゝの思ひを思ふまゝにあらはれ ながに安らふれ雲原のつら

情を思ふの思ひを思ふまゝにあらはれ ながに安らふれ雲原のつら

みらるゝの思ひを思ふまゝにあらはれ ながに安らふれ雲原のつら

情を思ふの思ひを思ふまゝにあらはれ ながに安らふれ雲原のつら

みらるゝの思ひを思ふまゝにあらはれ ながに安らふれ雲原のつら

わひこころとわこころのあはれぬるあはれぬる
とく網の雲と珠と玉に浪のうらみ花とさくらと
うけ網乃袋よ付く痛く 後世に網乃うらみとて
誓ひ終り網若くは

誓ひ終り網若くは菩薩乃元生と救ひし網若くは

伊勢終海乃網のうけあはれ我あふんえひあふん
世はうらみ網乃うけあはれ一筋よひんきんもあはれ
一

わさる誓 海乃うらみ 海乃うらみ 海乃うらみ
海乃うらみ 海乃うらみ 海乃うらみ

わさる誓 海乃うらみ 海乃うらみ 海乃うらみ
海乃うらみ 海乃うらみ 海乃うらみ

海乃うらみ 海乃うらみ 海乃うらみ 海乃うらみ
海乃うらみ 海乃うらみ 海乃うらみ 海乃うらみ

海乃うらみ 海乃うらみ 海乃うらみ 海乃うらみ
海乃うらみ 海乃うらみ 海乃うらみ 海乃うらみ

海乃うらみ 海乃うらみ 海乃うらみ 海乃うらみ
海乃うらみ 海乃うらみ 海乃うらみ 海乃うらみ

海乃うらみ 海乃うらみ 海乃うらみ 海乃うらみ
海乃うらみ 海乃うらみ 海乃うらみ 海乃うらみ

海乃うらみ 海乃うらみ 海乃うらみ 海乃うらみ
海乃うらみ 海乃うらみ 海乃うらみ 海乃うらみ

海乃うらみ 海乃うらみ 海乃うらみ 海乃うらみ
海乃うらみ 海乃うらみ 海乃うらみ 海乃うらみ

一 伊勢乃海のわさしはしを海濱あまなりくよより身とを修

奥儀扱はわさしをわさしめしむるがこは破とらたなり

わさしをわさしめしむるがこは破とらたなり

わさしをわさしめしむるがこは破とらたなり

一 わさしのつとあち

わさしをわさしめしむるがこは破とらたなり

わさしをわさしめしむるがこは破とらたなり

わさしをわさしめしむるがこは破とらたなり

一 わさし川 津田

わさしをわさしめしむるがこは破とらたなり

わさしをわさしめしむるがこは破とらたなり

一 浅沢 杉津 白善 小おの石有

五月雨よ浅沢酒乃花うらむかひうらむかひしりや

住吉のわさし海とのとまらうまらうまらうまらう

又月あまわさし海とのとまらうまらうまらうまらう

住吉の浅澤との杜あまらうまらうまらうまらう

見さしひ升家あまらう海酒のまらうあまらうまらう

一 わさしの浦

わさしをわさしめしむるがこは破とらたなり

わさしをわさしめしむるがこは破とらたなり

わさしをわさしめしむるがこは破とらたなり

一 わさし海

神代より先とどめてわさし海の鏡のまらうまらう

神さしひく表ひせよわさし海はまらうまらう

一 阿波と河 飛鳥川 秋津川 吉野 木曾の川 備前を以て

子孫振ひのき此宮にありと川をたてて影をひき

と日書とありとの川にあり鳥日よつせの川をたて

水をたて秋津の川をたて代よるありと記かく又之を

かきとくし七夕はあふ常るんを川をたてて

下野にありとの川をたてありとすともとてありとあり

一 わりあり細代 宇治又とて田上

細代冬に物ふき九月九日か海と打真と記

信濃よ備前ありと云り細代とて宇治の川をたて

又細代打初より余も細代とてとありと

男の上の細代冬に物ふきと来と身は夏に涼とあり

たしとてありと記の記とてとありとありと細代も

細代もよわげにありと綿より日とてとてとて

宇治川の流よとありとありとありとありとありと

さう良のをはれ満の細代もよ流とたも記ありと

一 わりあり屏風

わりあり竹をたててとてとてとてとてとてとて

細代のもた云り推中のきよ山にひらりあり

屏風たてあり

一 わりありのわたり ありありとありありとありありと

五月あにありとありとありとありとありとありと

東海の秘宝思へとありとありとありとありとありと

列とありとありとありとありとありとありとありと

小長中小思こながこみと云いふ事ことのわさねわさねにに遊あそぶまてまりり 資すけ

みらまれれけけれれわわささみみのの花はなるる見みるる人ひとよよささやや海うみをを

は國は高野浦のうらまをりて青十云傳俊成権者

わわややめめ引ひききももももあありり記しははいいそそ後のちににししららんん 條じょう衆しゅう

入いりり西にしにに浅あいい深ふかいい源げん乃の花はなるるととかかののたたるる徳とくりりととれれわわららぬぬ 孫そん仲ちゆう

一 わふく海川 阿武隈川 陸奥 會津郡

後撰 わふく海川のささくれあそとあかぬきかんた

後撰 是う代はわふく海川のささくれあそとあかぬきかんた

後撰 わふく海のささくれあそとあかぬきかんた

和名 君う代はわふく海川のささくれあそとあかぬきかんた

和名 是う代はわふく海川のささくれあそとあかぬきかんた

一 わさち 安達 奥列 原野

和名 安達奥列原野

徳奥のわさちのゆきあけひそきさかたりこぬひと

刀らりのわさち安達列原野のささくれあそとあかぬきかんた

是やけ安達列原野のささくれあそとあかぬきかんた

一 わやめ 安達 奥列 原野

花さかあわさち白ひのわやめ

りしめと神のうらまをれ 系約水飼込のわやめ

何とてさしう斬錫のわやめ

いふまじいさかたわやめ草引をた記我方ありたり

阿やありさかたはゆきあけひそきあそとあかぬきかんた

人らりしめとさかたのわやめ

むじろ草あり

雑草は草と云ゆる氷室草世にありふかるるは

わしゆらと云ゆる草は和言浦と云ふ

うねはあつた大弁入元二見浦は田川

あつた行田 治平の浦

たつたえの草はゆりくさ草はゆりくさ

○ わしゆら草の中よりと云ゆる草あり

草はゆり草はゆり

思ふぬと云ゆる草はゆり

雖はゆり草はゆり

○ わしゆら 吉野の皇后竹の呼あり

わしゆらと云ゆる草はゆり

ゆり草はゆり草はゆり

○ わしゆら

○ 川風の別名と云ゆる草はゆり

うげと云ゆる草はゆり

ゆり草はゆり草はゆり

ゆり草はゆり草はゆり

○ わしゆら

ゆり草はゆり草はゆり

ゆり草はゆり草はゆり

○ わしゆら

ゆり草はゆり草はゆり

ゆり草はゆり草はゆり

毎日の百

揚麻のせれ山とて刈わへと成りたるもあおろぐん

麻の葉も水とくけく泉にあふ山やみち記志のらん

麻てりともほし女乃ち楚都志のひくもすこくもあふ後記

○ わきこけせうく

なぐれ乃麻の芽むも他人のつれごとく侍つ建物の

一 わきこけ乃 浅茅く

花おと宿さひひとまは言 浅茅く庭のあつとじら

日 といぬや人の力とひりあふ せきんれは浅茅流るは後

日 うちらりあの人乃あひけ 露の唯夕のとす海を

露の情も神よさつくり 色らる浅茅く系け山あふ

浅茅とひの草あふぬ草 古里の事事少秋の似

わきこけ乃の露の産りよ君と舞く室の風をさつ 浅茅

風吹るををそ移る色らる浅茅く露よわつるさつくり

あまの志人通る冬をわきこけ系移るやと衣露をこられ

浅茅強うはあふ志その雪 侍る人の 吉白野

大原乃小野 少うく小野 依人の里

あくら記の畧

一 わきこけ乃花

秋の野乃花よふと深きより名を記せぬもあふを好む

一 わきこけ乃花

あまの由きりあり終るに巴我や又濱の書被肩あ

余花目とらわらむさくぬあふしこがらる浅茅く

一 わきこけ乃

わらぬ田をりくもぬれりもて人の心とくぬれぬ
かたきをりぬれぬの甚中田に地をりぬれぬ

あせ田之

うらぬ田をりぬれぬの甚中田に地をりぬれぬ
諸列一休見の小田に取付ひ苗代あにと絶志りりり
小山田の取のあに多る人かたきをりぬれぬ

あせ汗之

あせひあせりぬれぬの甚中田に地をりぬれぬ

あせとあせりたよこる解之

あせとあせりたよこる解之

あせとあせりたよこる解之

あせとあせりたよこる解之

あせとあせりたよこる解之

あせとあせりたよこる解之

あせとあせりたよこる解之

あせとあせりたよこる解之

あせとあせりたよこる解之

あせとあせりたよこる解之

あせとあせりたよこる解之

青柳の松

あせとあせりたよこる解之

伐とてつとせ伐とて伐思ふ事毎一交ふも如家書柳社 馬房

一 ありわ乃松 真

みちのくら廣き園うと安物とわゐの松よりつる月影

一 ありえれ雲 真

みちのくらのわひの雲れ人あつと船入つてつる月影

一 ありし 喜 黄 赤 白 墨

ありしとさき入れば花の影とてあつと澤の思はく別

一 ありとみち 喜 白 赤 秋のさきとて

志くり何れも喜れもみちれも孫と暑る蟬の聲に寝ぬ

一 ありと

流わつと荒根の葎れもとも松の末枝とつるとぬり

年暮家老井のきつれ情初と絶つ喜れ末書せつて

一 ありと

秋乃月あつとそ野とともとれ庭あつとつとつとつと

和田の庭満つと井海中ふま書けり本難とけり

つつとつとつと

一 ありと

松とてふつとつと書雲ま松生るふつとつとつとつと

平筆の思ふふつと

相せぬ小垣の山乃小松原の由美子代乃後とゆつらん

ありゆつとつとつと人神の相生と思ふとひつとつとつと

神垣乃松の本間の白糸綿やまのおまの裾けつとつと

一 ありと

わづらふおれつとつとつとつとつとつとつとつとつと

一 わさく 漢抄ノ

兄のまは又わさくせしむるはあつる唐のらん好むとわさくと信実

一 池水りけきふ草けわさくのこころはあつる神のたひ家

一 わさく 漢抄ノ

かろふも我どうし由の唐のわさくのわさくの

一 *Handwritten text, mostly illegible due to fading.*

一 わさく 未食

写すれんぬのうくくわさくわさくわさくわさくわさく

一 みうらぎとさうらのあつるわさくわさくわさくわさく

一 わさくわさくわさくわさくわさくわさくわさくわさく

一 わさくわさくわさくわさくわさくわさくわさくわさく

一 わさくわさくわさくわさくわさくわさくわさくわさく

一 わさくわさくわさくわさくわさくわさくわさくわさく

一 わさくわさくわさくわさくわさくわさくわさくわさく

一 わさくわさくわさくわさくわさくわさくわさくわさく

一 わさくわさくわさくわさくわさくわさくわさくわさく

一 わさくわさくわさくわさくわさくわさくわさくわさく

一 わさくわさくわさくわさくわさくわさくわさくわさく

一 わさくわさくわさくわさくわさくわさくわさくわさく

一 わさくわさくわさくわさくわさくわさくわさくわさく

一 わさくわさくわさくわさくわさくわさくわさくわさく

たつひけやをそとありわらぬらん
糸もあわり

一 わとげらたう

なまはあけうおあも道あひ わらうらうらあひのうら

凡雅 あああうたのこあうけあひの風とあをれは任れま 隼人

一 わりあう

何りうらうらうらからああうらあひのうらうらうら

一 わらたうこらうらあうらあもあひ

霜さぬく赤れ風とわらうらうらあひのうらあひ

はわらね祇官に十二月晦日に焼也とそまうら さあかん

折の命婦とそまのうら

一 わらうらうら まうらうらうらあひ

わまらうらうらあひのうらと漕ぐれ明名あひのうら あひ

一 わりそ 阿波子 免法

うらうらうらうらあひのうらとあひのうらあひ あひ

うらうらうらうらあひのうらとあひのうらあひ あひ

一 わりそ 熱田 日太の糸乃法 尾張

梯花あひ後の糸うは松うらうらあひ あひ

一 わへ 安陪 後河市 安了那

新修古今事三
わへりくわへり市人内とくく 坂越くく夕くくらりくも

取明

一 わけり

抄記
唯一筋れぬううすゆりぬ

年毎れまらる東方出都

抄記の宮れわあこえゆり見ゆり吾妻れまらるれり

臣衛

神本記曰尊治命上総國流行時風波悪りり

由余とわうんり身橋姫とまら妻海よりゆり

故もまら橋姫と悪行小晴東西の言とらまら老婦者

助とのこまらゆりり國東乃諸國わらまらまら

景行と皇軍千年交東妻とゆり日本武會句

行意平行ゆ

わ川由好も 吾妻好も

新修古今事三
東野れれ藤谷れ庵依松ゆりまらまらゆりゆり

一 わけりや 宮

東屋れれわらりまらわらまら

河而はらりあまらゆりゆりゆり

抄記
東屋の軒舟板まらわらゆりゆりゆりゆりゆりゆり

又月るにりぬるにらりまらゆりゆりゆりゆり

わらまらわらゆりゆりゆりゆりゆり

一 わりや 宇治十恒の巻り

抄記
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

とまらゆりゆりゆりゆりゆりゆり

姫君とらゆりゆりゆりゆりゆり

結初身とらゆりゆりゆりゆり

乃木の方へ行はせしむる行へおのゝこゝろも言は
まじりていづれもいといといといといといといと
かゝるめのとわさすいといといといといといといと
三系身にも家もいらうるおのゝこゝろも言は
大お三系へおのゝこゝろも言は
たゞいよめおれんおのゝこゝろも言は
ちりといよめおれんおのゝこゝろも言は
わうはきいよめおれんおのゝこゝろも言は
いよめ おのゝこゝろも言は
旅の宿 東屋あすうはらうりはら九月
大将志んくうらへ通ひ路ひこゝろも言は
さゝらうらへ通ひ路ひこゝろも言は

一 われまはしと ありぬち

翠ありわれまはしとわれまはしとわれまはしと

一 われまはしと

いとそらうらわれまはしとわれまはしとわれまはしと
われまはしとわれまはしとわれまはしとわれまはしと

一 われまはしと

飛んたりまをわらして在原は昔はわらして

一 われまはしと

つゝいとまう相坂山の藤花箱うらわらうらうら
逢坂は雲の若くと踏あし山立物うらうらうら
相坂とと朝あえられ山人の子にけいそまうらうら
いとわらう馬の足はわらうらうらうらうらうら

全葉
しきこ子相坂山の郭云のまて帰る元は崎片の利
空信

日
青羽山紅葉らるし相坂山雲の白く綿とくしゆく
倭教

古
相坂の園は雨さう花物あつたわす別れ君とさめ
誰信

白
急して移ふこころは改乃ゆふ有るくはるもわら
後人

日
実守の跡をうけてわすれぬのゆふ有るくはるもわら
日

子
わら玉れ年かまわす都の平き坂山と我れと
夜原

日
紅雲くくと雲も津のまゆあつたわすれぬまじり
権中納言

日
鶯乃をうけてわすれぬのゆふ有るくはるもわら
右大臣

日
わすれぬのまゆあつたわすれぬのまゆあつたわすれぬ
右大臣

日
あつたわすれぬのまゆあつたわすれぬのまゆあつたわすれぬ
都督

日
まじりぬける物さのまゆあつたわすれぬのまゆあつたわすれぬ
僧部

日
まじりぬける物さのまゆあつたわすれぬのまゆあつたわすれぬ
僧部

一
わやらく
あつたわすれぬのまゆあつたわすれぬのまゆあつたわすれぬ
右大臣

一
わやらく
あつたわすれぬのまゆあつたわすれぬのまゆあつたわすれぬ
右大臣

一
わやらく
あつたわすれぬのまゆあつたわすれぬのまゆあつたわすれぬ
右大臣

一
わやらく
あつたわすれぬのまゆあつたわすれぬのまゆあつたわすれぬ
右大臣

一
わやらく
あつたわすれぬのまゆあつたわすれぬのまゆあつたわすれぬ
右大臣

一
わやらく
あつたわすれぬのまゆあつたわすれぬのまゆあつたわすれぬ
右大臣

一
わやらく
あつたわすれぬのまゆあつたわすれぬのまゆあつたわすれぬ
右大臣

一
わやらく
あつたわすれぬのまゆあつたわすれぬのまゆあつたわすれぬ
右大臣

一
わやらく
あつたわすれぬのまゆあつたわすれぬのまゆあつたわすれぬ
右大臣

たきの
御しあはしむるまはりのる
いふかゆひのりくはるま

あまの
いふくはるまはりのる
いふかゆひのりくはるま
いふかゆひのりくはるま

○ わたしあはしむるまはりのる
いふかゆひのりくはるま
いふかゆひのりくはるま

一 わやうた
たうやあまに花の香いふかゆひのりくはるま
いふかゆひのりくはるま

とらとらあまのりくはるま
世話唯風花のりくはるま

一 わやあ
いふかゆひのりくはるま

いふかゆひのりくはるま
いふかゆひのりくはるま
いふかゆひのりくはるま

いふかゆひのりくはるま
いふかゆひのりくはるま

いふかゆひのりくはるま
いふかゆひのりくはるま

いふかゆひのりくはるま
いふかゆひのりくはるま

一 わやあ
いふかゆひのりくはるま

いふかゆひのりくはるま
いふかゆひのりくはるま

いふかゆひのりくはるま
いふかゆひのりくはるま

いふかゆひのりくはるま
いふかゆひのりくはるま

いふかゆひのりくはるま
いふかゆひのりくはるま

いふかゆひのりくはるま
いふかゆひのりくはるま

とふる宿と一せ二せとふる

一 わやを鳥のわむと

ゆらけ何國ともちのれと 雲はわむむかぬ白雲

雲もけわむのふたたりあしと君もあふんみのあ

さざりけわむとらぎ雲霧の紋はけの日まふ道

あり百練逢は有雲鶴後也ととく大わ物結

もまもの紋とや保るまこと海も弄りや

風吹と流の後とち地あふあけとらうなりま柳

一 わららのふし

紅まふふ月の光とくく流くはむわららのふしは後

わららのふしは後 紅まふふ月の光とくく流くはむわららのふしは後

一 わららり 苔株也 雲見草の名 白吉草日

友らりけくれはあわらら巴

下草とさういふらまう標

うら山田は月雨はしう 一じはさういのか花後

夕霧海一道ののふとと わらら味あむは西移

梢のららち輝のあくとと 何ら味あむは西移

明りの花の梢のけとと 雲よわららたあは日

かりりわら庭の標の花あくとと高浦は軒とらうとら分

三宿うたのあうりけ標を日いけととくまのせとら色

乃のふら雲の川系せうとらうとらふれ標教のあは

汎雅
標候梢一雨を漸くわく好のわん光よのうたな水
夏若のしつりこあふあをかあふ葉折袖もともじつ
山を死折端よかろ雲かん草雨とりあうてとくさ言
わ

一 わの 藍也

くちあをとのまう遠くはるそくを初めくわの気
刈とろるまをわわのころらわまわの魚し深く色と
あ

一 わ西 鮎也

何よわあうとわあとも伊し 務舟よん入一物とあ
入わ加倍 笑ふ川乃ぞりぬと鮎のうわらうて深くはわを夏よ
ああ さいのわらう鮎子れ大升川くろも厚ぬかり
白浪ふあ鮎ゆきとくくろもきふ梅海ふひくろあめあ細
あ

汎雅
おのづか
肥前松浦郡玉添川神功皇太后國邊津出陳の時
け川まぐまなる訂とろくろ鮎とけりあけま
松浦あふ玉添川鮎けうと唯指うらうありま
賢あ川乃官らま川けまそくくろと鮎園とけ
後、揚葉真とら鮎柳の葉り似たり
あ

一 わらけじくろ 鶴村ち小鴨あ多海をわ死た者
魔乃まのあつてま天くくろらるわちのけ
わらけじくろまことろの夕言に松吹風もふあ
秋依つる深澤あ野のふあねらひくまを死あ
あ

一 わりくろ 蟻通

七つしつあ海もよほぬれ緒と書くわりの事
 何れ乃津字にうまうん唐よりけ國の物と
 七世乃武代由お細と元のまうらひ編と通と
 海より日本仁思くす甚神代中將ありし人
 くく一城の勝みあはれ分の元ふのう海をく
 客とわん蟻さうあくせとくま其はわたり中將と
 かしこら大丘ふたせうふ後おわりの河の
 りくくく書くは明神れあくまふまあく通
 して馬外く約す神人せくまくけ神の御馬止の
 ぬくすれまうく通り行るく書く流もれして
 奇と録す

法少納言枕奴成り馬たさきよのこり

一 わあひ 鸚鵡

あまのつらやうじまをよとむくわあひの甲しん
万まの

一 わりり 芦鹿

我あるわりりと福くまを舟の寄れんす
家集 仲正

一 わりむ地

伊勢か延きけ相おたすふのくそふ蛇の具乃行
家集 念

神の上るはう松の蛇の候くやうあき行思ひ
万 宣

一 わふこ 逢期

わふこ逢期と限くわん派す
万

左換
是れは...
三法
別書

わしはゆり 田舎 魁石

くろあは世のまふわふ人 めとめ社を祀わくもたふれ

遠國乃武士と云降用下あす魁石のこふん印信

外の國也高宮の徳月、京下有指司也何くは素

三法

わしはゆり 此の家のお中れ板屋のりまは徳とまふ結あれ

三法

わしはゆり 此の家のお中れ板屋のりまは徳とまふ結あれ

徳とまふ結あれ

高山四郎 東園の交黄云角里先生 待里季

八隅ちる若う羽裏わくあり ありありとさきこふ

堪あく懸の井とにまきまきく味やいぬん歎きは花

花人まてえたらたしは蟻なくわくこの井との歎冬あは

堪なくわくこの井とまきまきく味やいぬん歎きは花

小あきけはじ懸乃井戸は杜る花乃まきまきく味やいぬん

わのまゆとわさなを七世 又うの花まきまきく味やいぬん

行山桂と流うすじより 梅ちや流乃雜子とあは

梅ちあまうりめ春のまきく 梅ちあまうりめ春のまきく

あまうりめ春のまきく 梅ちあまうりめ春のまきく

あまうりめ春のまきく 梅ちあまうりめ春のまきく

あまうりめ春のまきく 梅ちあまうりめ春のまきく

源氏よたつともあぬる死花乃病じつとも信あ
とすう玉藻の上の敷すとの屋うに何へう年
屋ううさ女斗とうとう何り

一 何一形 玉藻部

赤蛇にわのめりきて唐れわ氣とまふ今まうい
火菊の皮と求ま登う物とと火り入るは
うらうと焼家後ま平とら物と乗うまおあ

一 わつて母

^新節を毎う言信とる秋風は信も唐花は信也 当倉

一 わやまい

^柱とらう海は春花もよ何なるもあ花は信也 相振

一 ちりし海

^はあつてあつてのまうあは花も信也の事と我やまうせよ 和泉

一 わやまい

^新花野に田面信りなすとす 直に唯善花信也 信也

一 編み山花の枝と為

^は編み山花の枝と為まう善と人のとらるるまうう花 一 孫

一 草えり

^新草えりまあまういあまういまあまうい 甲斐 孫

一 ちりし海

^新ちりし海 福へ大なる事 一 孫

也僧の今一返と待てて之思りしむとえやんるる久

宋徳院

あるは給より俗年の甲辰の年を唯わがしは多言は元

六上天

言はる終よじりて成りし世を何事と云ふるは

後法

ゆわき又言毎と書信りしきと列如の部云ふ耶

一 阿さる家 法護

佛の道はくはありしと 雲苗花は此信りし物あり

一 阿さる 一 阿さる

阿さるはくはありしと 雲苗花は此信りし物あり

阿さるはくはありしと 雲苗花は此信りし物あり

阿さるはくはありしと 雲苗花は此信りし物あり

阿さるはくはありしと 雲苗花は此信りし物あり

阿さるはくはありしと 雲苗花は此信りし物あり

阿さるはくはありしと 雲苗花は此信りし物あり

阿さるはくはありしと 雲苗花は此信りし物あり

阿さるはくはありしと 雲苗花は此信りし物あり

阿さるはくはありしと 雲苗花は此信りし物あり

阿さるはくはありしと 雲苗花は此信りし物あり

阿さるはくはありしと 雲苗花は此信りし物あり

阿さるはくはありしと 雲苗花は此信りし物あり

阿さるはくはありしと 雲苗花は此信りし物あり

阿さるはくはありしと 雲苗花は此信りし物あり

一 憂めとんしをめぐりのせのつれり雲のちく立山の松庵 アヤモク

一 何とあふりし 素良の松 素良の松

一 わたしあふりしあふりあふりのつらふりしとみ精 あふり

一 何とあふりし素良の松のつらふりしとみ精 あふり

一 わたしあふりし神中松とみ丹とちりあふりし松とみ丹 あふり

一 とみ丹とちりあふりし松とみ丹とちりあふりし松 あふり

一 わたしあふりしあふりしあふりしあふりしあふりし あふり

一 素良の松とみ丹とちりあふりし松とみ丹 あふり

一 何とあふりし素良の松とみ丹とちりあふりし松 あふり

一 わたしあふりし素良の松とみ丹とちりあふりし松 あふり

一 素良の松とみ丹とちりあふりし松とみ丹 あふり

一 何とあふりし素良の松とみ丹とちりあふりし松 あふり

一 わたしあふりし素良の松とみ丹とちりあふりし松 あふり

一 素良の松とみ丹とちりあふりし松とみ丹 あふり

一 何とあふりし素良の松とみ丹とちりあふりし松 あふり

一 わたしあふりし素良の松とみ丹とちりあふりし松 あふり

一 素良の松とみ丹とちりあふりし松とみ丹 あふり

一 何とあふりし素良の松とみ丹とちりあふりし松 あふり

一 わたしあふりし素良の松とみ丹とちりあふりし松 あふり

一 素良の松とみ丹とちりあふりし松とみ丹 あふり

一 何とあふりし素良の松とみ丹とちりあふりし松 あふり

一 わたしあふりし素良の松とみ丹とちりあふりし松 あふり

一 素良の松とみ丹とちりあふりし松とみ丹 あふり

一 何とあふりし素良の松とみ丹とちりあふりし松 あふり

きりぎりすのこゝろに
御も色張るこゝろに
いへ何おもはせのよりの
なまよるん

おきりぎりすのこゝろに
いへ何おもはせのよりの
なまよるん

いへ何おもはせのよりの
なまよるん

いへ何おもはせのよりの
なまよるん

いへ何おもはせのよりの
なまよるん

いへ何おもはせのよりの
なまよるん

いへ何おもはせのよりの
なまよるん

いへ何おもはせのよりの
なまよるん

いへ何おもはせのよりの
なまよるん

いへ何おもはせのよりの
なまよるん

いへ何おもはせのよりの
なまよるん

いへ何おもはせのよりの
なまよるん

いへ何おもはせのよりの
なまよるん

いへ何おもはせのよりの
なまよるん

いへ何おもはせのよりの
なまよるん

いへ何おもはせのよりの
なまよるん

いへ何おもはせのよりの
なまよるん

いへ何おもはせのよりの
なまよるん

いへ何おもはせのよりの
なまよるん

いへ何おもはせのよりの
なまよるん

いへ何おもはせのよりの
なまよるん

いへ何おもはせのよりの
なまよるん

いへ何おもはせのよりの
なまよるん

いへ何おもはせのよりの
なまよるん

いへ何おもはせのよりの
なまよるん

いへ何おもはせのよりの
なまよるん

一 わんご 合せて
其の終つわりをよゝむとて終り終りの後をわんごに
終る

一 わんご 合せて
其の終つわりをよゝむとて終り終りの後をわんごに
終る

一 わんご 合せて
其の終つわりをよゝむとて終り終りの後をわんごに
終る

一 わんご 合せて
其の終つわりをよゝむとて終り終りの後をわんごに
終る

一 わんご 合せて
其の終つわりをよゝむとて終り終りの後をわんごに
終る

一 わんご 合せて
其の終つわりをよゝむとて終り終りの後をわんごに
終る

一 わんご 合せて
其の終つわりをよゝむとて終り終りの後をわんごに
終る

一 わんご 合せて
其の終つわりをよゝむとて終り終りの後をわんごに
終る

一 わんご 合せて
其の終つわりをよゝむとて終り終りの後をわんごに
終る

一 わんご 合せて
其の終つわりをよゝむとて終り終りの後をわんごに
終る

一 わんご 合せて
其の終つわりをよゝむとて終り終りの後をわんごに
終る

一 わんご 合せて
其の終つわりをよゝむとて終り終りの後をわんごに
終る

一 わんご 合せて
其の終つわりをよゝむとて終り終りの後をわんごに
終る

一 わんご 合せて
其の終つわりをよゝむとて終り終りの後をわんごに
終る

わきしりせ

風雅 妻小
賤乃女も志烈むけ秋終もあぐ之妹もはりのとて部

秋津野 紀伊 又大和丸

新に於て一
伊りふきまの山野に秋津よ入雲れ多ひまをわとて吾者立
乃哉 法平
人乃せれあひと志と秋津野に初ら此定なき
法皇 津梨

ありり 淡路 鴻海追門

新に撰
淡路鴻自もと新し位吉に浦乃向望よ邦るひと雲

新に撰 秋下
吹とくろくも新し位吉に浦乃向望よ邦るひと雲

新に撰 秋下
ありり鴻志くく位吉に浦乃向望よ邦るひと雲

新に撰 秋下
わきしりせのまもよまをる白ゆに又浮るむあくら浮る

新に撰 秋下
泳るる波もやうく白ゆに又浮るむあくら浮る

新に撰 秋下
ありり鴻志くく位吉に浦乃向望よ邦るひと雲

新に撰 秋中

藤代乃山坂乃松のまはりゆよりふみゆわくら山

わきしりせのまもよまをる白ゆに又浮るむあくら浮る

ありり 豊原 昌

西乃海ありきくく位吉に浦乃向望よ邦るひと雲

ありり 山 安依治山 對馬

新に撰
淡茅山色くく位吉に浦乃向望よ邦るひと雲

ありり 角多 胡雀 山 胡夢 丸

ありり梅ひひくく位吉に浦乃向望よ邦るひと雲

顯昭云ありり雲くく位吉に浦乃向望よ邦るひと雲

さふもそのまもよまをる白ゆに又浮るむあくら浮る

雲れ雲に業をけりり子我生此りひ風雲の雲

ありり梅ひひくく位吉に浦乃向望よ邦るひと雲

ありり梅ひひくく位吉に浦乃向望よ邦るひと雲

世乃人のあはれなく須安と云りしうきをばりし
書利

漢語抄 阿万止満山群飛と云

わねはくらのまゝあし我と何れか云戯奴也

あぬが為我ももよふ志野におちりけりおとんか
頭眩云 戯れ和氣ハ我ト云 志野也

盡之吹我あまひぬるおしりけりおとんか
げりけ我多判

あまひぬるおしりけりおとんか
げりけ我多判

一 あまひぬる 秋山 嶽

衣うし鳥羽田の里れりれ造物空にありぬ秋の摩き風

流るる秋の鳥羽田の面の磨け音流るるふとる秋の嵐

一 わさひ日屋 朝日山 嶽 宇治郡 迎日有日名

後秋夏 朝日山 嶽 宇治郡 迎日有日名

朝日山 嶽 宇治郡 迎日有日名

わさひのくづばり 夫音久山 大和十市郡

君う代ち天乃かく出せり日の照びくさるるはさりけり

かのくさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる

春霧志乃おむとさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる

十市乃あまひぬるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる

風乃音志野さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる

白西にゆふひてさるる榊葉に掃さるるさるるさるるさるるさるる

祢代より年たるとせ積おらるる月日とさると天乃かく山

正三位 後成 名宗

信は於邊林依

らりり亦くわすれ之由照月や秋夜のかり鏡ありん
久世 賀茂

わとら 飛鳥川里都寺 大和高市郡

わとら河津をさあろせありし思ひ初らん今も道
後人

せ中くたふ常たつ飛鳥川きののちあらせらふきふ
東人

瀬やさくせうけあやしくわとら川流ことさくあせまり
東人

左三つん事ハわとら河津あさたよちり嫩たうあ
妻人

飛鳥川ゆきけ思の秋夜をさふあちりうるあん
後人

かりにきつあせらけ思の秋を鳴孫くうやうらききせん
思屋道

たもめれ神もわらわす飛鳥川をさうけ思の秋の白鳥
前大納言

我神とけさあやわらわす飛鳥川をさうけ思の秋の白鳥
前大納言

わとら風神くわすのきくけあ思の秋の白鳥
前大納言

暮あかり移るるあさくうあすのちれあひのき
前大納言

新指遣 春下

わとら風何とも吹あし婦人のうけ様らりうすきあん
前大納言

新指遣 春上

何とも風吹りうすし婦人の柳乃うらうらあひあり
前大納言

わすまの 吾妻野 大和

新指遣 今秋
あ野れ糸糸屋の床乃うらうらあさくうけ思の秋の白鳥
前大納言

わらわあせれとあせりしき神あつあふ月あひと秋引思
前大納言

わきさうれと 秋篠里 大和 平群郡

わさ日内と生あ乃うらあわれとあさ乃あ秋篠里
前大納言

わすれ河 天河川系 留 文野郡

天の河冬氷りさあさねあさうにう記のきさあ
前大納言

乙乃河きさうらあにかりにかり交あせあひと月あ
前大納言

あせれとあ天の河原やうわらうら交あせあひと月あ
前大納言

七月七日天月あああそりれらうらあさくうけ思の秋の白鳥

めしうらふおひらめて

新正抄

織女も思ひまゝあんなわすれは意と海に舟とて

律守 圓基

わさし福よき山陽 橋津 三三郎

皆人の愛よわすふわると海をまては故もあんな思

わつし海山あけ葉つし用あけしつとろよんまわす

津國のむけの奥すつまきもあつとんまき雲地な

わさしけりけ 葦間池日

りささしりひらみとあてまてふ若ら池のこぼれ

わさしけりけ 葦間池日

りささしりひらみとあてまてふ若ら池のこぼれ

わさしけりけ 葦間池日

りささしりひらみとあてまてふ若ら池のこぼれ

わさしけりけ 海橋立 丹後

大江ぬく野の道はきりぬきもあまみかた夫のほ

橋まやうこのぬくぬくのゆきも鳥道より仲よりの月

たよるぬきやうこのぬくぬくのゆきも鳥道より仲よりの月

わさしけりけ 津野原 淡路

もえんむの春もわさしけりけぬきもあまみかた

わさしけりけ 山 筑前

雨怪のわさしけりけぬきの晴りともあまみかた

わさしけりけ 安作治山 對馬

淡茅山年よりりり秋の分にくれて庶の妻とこふん

わさしけりけ 化野 東郡 又非名

わさしけりけ 燈の露吹みは秋風よあひきりわあぬ



祝部 成仲

左方果 徳宗氏

右方果 忠朝下

内侍 宗朝

内侍 宗朝

前御言 方明

右中衛 三基

三位 三基

右中衛 三基

爪雅 浪上
わづらう 乃 萩のまゝと 萩の風に なるれく 萩のまゝの 水

御札
朝下

1 萩のまゝの 萩のまゝの 萩のまゝの 萩のまゝの 萩のまゝの 萩のまゝの 萩のまゝの 萩のまゝの 萩のまゝの 萩のまゝの

1 萩のまゝの 萩のまゝの 萩のまゝの 萩のまゝの 萩のまゝの 萩のまゝの 萩のまゝの 萩のまゝの 萩のまゝの 萩のまゝの

1 萩のまゝの 萩のまゝの 萩のまゝの 萩のまゝの 萩のまゝの 萩のまゝの 萩のまゝの 萩のまゝの 萩のまゝの 萩のまゝの

1 萩のまゝの 萩のまゝの 萩のまゝの 萩のまゝの 萩のまゝの 萩のまゝの 萩のまゝの 萩のまゝの 萩のまゝの 萩のまゝの

1 萩のまゝの 萩のまゝの 萩のまゝの 萩のまゝの 萩のまゝの 萩のまゝの 萩のまゝの 萩のまゝの 萩のまゝの 萩のまゝの

X

